

# くにたち しらべ



NO. 009

発行日 2009 年 9 月 1 日

編集＝くにたち図書館地域資料ボランティア

発行＝くにたち中央図書館

テーマ

## 『谷保の城山』

じょうやま  
谷保の城山（谷保6003一带）

### 1. 居館跡と神明社

「城山」は国立第一小学校の南側、比高差8mほどの青柳段丘が多摩川に面して張り出した台地縁辺にある中世の居館跡です。

現在の家は、明治時代の建築で、昔の館はありません。

邸内には古井戸もあり、江戸時代からの古木も多く残されています。周囲に残っている土塁や空堀から、方形にからぼり郭くるわがつくられた「方形館」の特徴をもつもので、およそ14世紀以降につくられたものと考えられています。なお居館跡は個人の敷地となっており、立ち入りはできません。

従来、三田城・三田氏館とも呼ばれ、三田氏との関係を想起させますが、中世における三田氏との関係は確定さ

れておりません。



図1 多摩らび\*13より

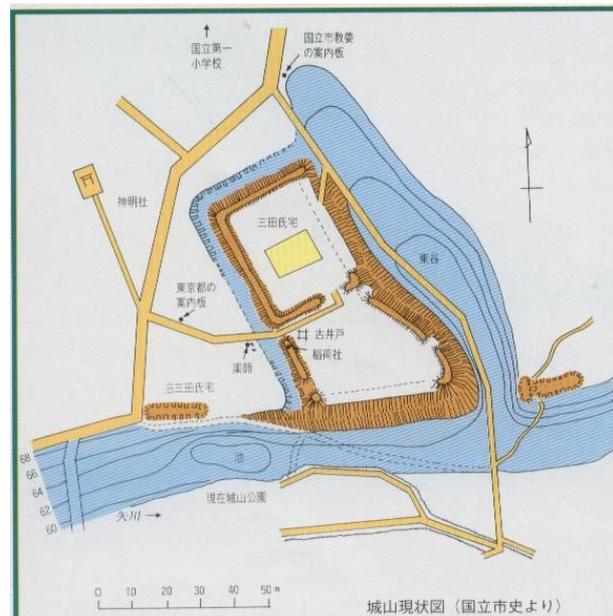


図2 城山現状図（国立史より）

館の西北辺には、津戸家の守護神とされる、神明社が鎮座しています。

祭神は天照皇大神<sup>あまてらすおほみかみ</sup>で、9月17日に例大祭が執り行われます。境内敷地は 348坪（約1150㎡）です。

江戸時代の神明宮は神明山と称されました。境内地の他、二斗四升（下畑四畝二十四歩）の除地を付された神社でした。また城山五反余りも「神明免」と呼ばれ、同社付属の除地（見捨地と記された史料もあります）でした。禰宣<sup>ねののぶ</sup>を勤める代々の三田家の人々は江戸時代を通じてこれらの土地や祠を維持管理していました。（\*20）

17世紀の時点では天満宮との関係は明らかではありません。明治初（1868）年に天満宮の神職となった津戸真守<sup>まもり</sup>の生家、城山の三田氏の邸内に神明宮が勧請されおり、寛永6（1629）年の棟札と延宝6年の検地にさいしての除地についての記録が残されています。

神明社地と、城山一帯をひっくるめてその面積は1754坪（約5800㎡）外に除地下畑144坪（約450㎡）をあわせたものが、この城山の総坪数です。（\*3）

## 1) 城主

城主については、色々な説がありますが、確定はしていません。上代～鎌倉期以前は土地の世襲制度がなかったので、城山の持ち主も何度か変わったのかもしれない。くにたちの歴史においては、この城山が、菅原氏、三田氏が大きな役割をしていたようです。

### ① 県主貞盛<sup>あがためし</sup>説

『江戸名所図会』#1に「貞盛旧館の地」と書かれています。

### ② 菅原道武説

信頼のおける資料がありません。『天満宮略縁記』・『安楽寺記』などによると、道真が太宰府に配流されたとき、貞盛のもとに身を寄せたと記述されています。道武はまた貞盛の娘を娶って一子道英をもうけました。道英の六世の子孫が津戸三郎為守とされています。

### ③ 津戸三郎為守説

『武蔵名勝図会』#2や『新編武蔵風土記稿』#3に「津戸氏あるいは、津戸三郎住居と伝えられている」との記述があります。

### ④ 三田氏説

『城山由来記』（三田家所蔵、明治41（1908）年発行）に扇谷上杉氏の四家老の一人三田右衛門の子が、上杉朝興が北条氏康によって滅ぼされたとき、谷保に<sup>ちつきよ</sup>蟄居したと記述されています。万治古絵図には、三田左衛門宅が描かれ、江戸初期から三田氏が城山に住んでいたことを示しています。

### 3) 城山が書かれている古書

#### ①『江戸名所図絵』

菅原道武と朝臣旧館の地として、城山の館が記述されています。

#### ②『武蔵名勝図会』

城山と、神明社の古墳が記述されています。

#### ③『新編武蔵風土記稿』 卷之九十一 に 城山の名が記述されています。

#### ④『谷保案内』#4

城山の名が記述されています。

### 4) 城山の石造物

#### ①神明宮の鳥居断片

神明宮の御神体は、土中に埋まっていた板石の古碑です。旧鳥居の断片が散在しています。その石質は、神奈川県産七沢石です。（\*17）

#### ②三田貞盛卿碑

1小の向かい側、駐車場の大樹の下に、「三田領領主 谷保県主 壬生朝尊 臣貞盛卿」と彫られた碑があります。建立者や年号は分かりません。（\*17）

## 2. 歴史環境保全地域

### 1) 城山

昭和19（1944）年都旧跡に指定されました。またこの城山一帯にはナラやケヤキの大木が茂り、武蔵野の面影をとどめ、春はニリンソウ、夏はキツネノカミソリといった花々（→くにたちしらべNo.4国立の植物参照）が、見られ、



図3 谷保の城山歴史環境保全地域区域図

美しい自然景観を残しています。

昭和19（1944）年都旧跡に指定されました。  
昭和50（1975）年館跡と周囲一帯が「東京都歴史環境保全地域」に指定されました。

保全地域として指定されているので、都市開発や建築物の規制が行われ、自然を保護しています。



図4 谷保の城山

## 2) 城山公園

「東京都歴史環境保全地域」から外れますが、段丘崖に接して、城山公園が設けられ、青柳崖線の自然林を取り込み、池をめぐるハケ特有の植物を植え、保全管理しています。



図6 ニリンソウ



図5 キツネノカミソリ

これら景観性や風土性の上からも貴重な緑を守り活かすために、昭和57（1982）年に地元及び学識経験者から成る「城山公園構想推進懇親会」を発足し、数々の課題に対して広く意見を集め、計画をたて、昭和61（1986）年にオープンしました。(\*26)

敷地は南北に幅10～30m、東西に長さ約160mと細長く伸び、崖下に湧水が流れ、田圃に面しています。自然観察園としての本体部分（2,662㎡）とハケに沿って西側に伸びる水路脇の散策路は（延長約234m）からなり、丸太の橋やさくをはじめ、石畳や水辺に張り出した木製のデッキなどに自然の素材を使っています。(\*41)

また葉裏に棒などで字を書くと黒変するタラヨウや羽根つきの追羽根の玉に用いられるムクロジなど、古くから人々の生活と深く結びついた民俗植物の植えられています。(\*41)

当初植えた130種のうち現在は1/3に減少しており、環境の変化に対する自然環境保護の難しさを示しています。

夏場には多摩川の水を引き入れ、冬場はママ下の湧水を利用するなど自然を大いに取り込んでいます。(\*41)

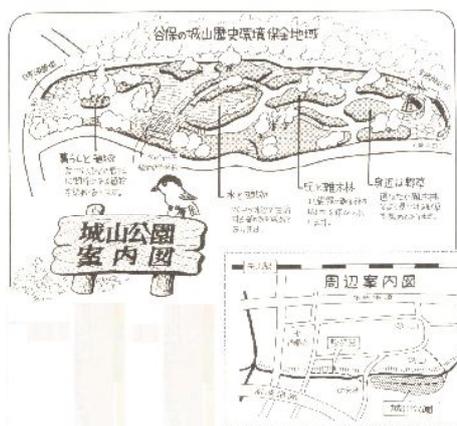


図7 谷保の城山歴史環境保全地域

南西側には、古民家が、隣接しています。

### 3 城山の自然

城山には、青柳崖線部分にシラカシ群集ケヤキ群集が生育しているほか、ケヤキ・シラカシ屋敷林、イヌシデ群落、クヌギーコナラ群集、モウソウチク林などがまとまった広がりを持っています。ケヤキなどの大木も多く、目通り1.5mを越すものが、43本が記録されています。

また城山公園は市内では有数の、ハケ特有の植物を多数見られます。またカブトムシなど甲虫類が尤も生息しており、大切な自然資産の保存ゾーンとなっています。

ハケ沿いに作られた散策路には、水浴びを楽しむヒヨドリや、草の実を探すメジロの姿を見受けれます。

### 4 城山・古民家・田圃の風景



図 8 左手古民家と菜の花を前に春の城山



図 9 散策路からヤクルト研究所方向をみる

## 語句の説明・解説

#1 江戸名所図会 江戸時代後期に刊行した江戸の地誌。7巻20冊。長谷川雪旦の挿図も有名。前半1-3巻(10冊)は1834年、残り4-7巻は1836年に刊行された(全7巻20冊)。日本橋から始まり、江戸の各町について由来や名所案内を記し、近郊の武蔵野、川崎、大宮、船橋などにも筆が及んでいる。江戸の町についての一級資料である。

城山については次のように記述されている。

「同所(谷保天満宮から)二丁ばかり南にあり。空堀城門の跡と覚しき所も見えて、四方二丁あまりの封境なり。土人三郎殿屋敷跡と称す。相伝ふ、三郎道武この地に住し、当地のあがた 県主上平太貞盛じょうへいたさだもりの女を娶り一子を得たり。その子を菅原道英と号す。それより六世の孫を津戸三郎為守と号くると。

(津戸為守の事は安楽寺の条下に詳なり。)或は云ふ、この地は貞盛旧館の地なりとも。(道武主、貞盛の女を娶りたる等の事は、未だ考へず。)

#2 新編武蔵風土記稿 間宮士信らが徳川幕府の命によって編纂した武蔵国の地誌。全部で265巻からなり、文化7(1810)年から文政11(1828)年にかけて完成。

「地蔵街道、小名として城山共に、南にアリ」との記述があります。

#3 武蔵名勝図会 八王子千人同心出身の植田孟縉うえだもうしんが書いた多摩郡12巻の武蔵野を紹介した本。文永3(1820)年に完成した。

城山と神明社について、次のように記述されている。

### ・城山

安楽寺より西南に当たりて六、七町をへだつ。津戸氏が居地なりと云。村の字を城山と呼ぶ。城跡にあらず。邸跡なり。四方に土手ありて、西北端に高き地あり。ここに居館ありしや。その外は低き平地なり。西南の方に古井ありて、水底に水あり。すべて



津戸三郎為守の館 (『武蔵名勝図会』より)

ここは山林にして、四方凡そ三十間余もあるべし。廻りに空窪あり。幅二間余。土手高六尺余。南の方は切崖にして、その下は水田なり。玉川端に続きり。但し、玉川までは十町余あり。この土居外は百姓屋敷となりて、民家二、三軒あり。その百姓家の際にも土手の崩れ残り二、三カ所あり。その限りは不知。

### ・神明塚

この神明塚と城山の間に、神明の社地あり。往古より鎮守社にてもありしや。いま城山の地は神明

の除地免なり。又云この塚は百姓屋敷の内にて折廻したる土手の鼻の少し高き地にて、榎の古木一株あり。その下に板石の古碑一基土中に埋まりて、二尺程出たり。その上に雨覆いをなし。この碑を神明に祀れり。崇りしことあるゆえなりとぞ。土俗この石碑の謂われも不知。この塚の前の平らかなるところに大なる平石ありて、その下に石函の如きもの埋まりてありと数百年の言伝えなり。」

#4 谷保案内 谷保千丑生まれの遠藤由晴が書いた本で、上下2巻からなり、江戸時代の谷保村の様子を七五調で綴った江戸時代末期に寺子屋でもっとも重用された教科書である。

城山について 「……城山神明除地の高 二斗四升とや聞き伝ふ……」と記述されている。

出典・参考資料 ([ ]内の図書記号は 国立市中央図書館、( )は中央公民館)

- 1) くにたちの歴史 編纂 国立市 平成7(1995)年 [10・B1]
- 2) 国立市史 上中下 編纂 国立市 昭和63(1988)年 [10・B1]
- 3) 国立歳事記 原田重久 昭和44(1969)年 [10・B1]
- 4) 国立風土記 原田重久 迷水亭書屋 昭和42(1967)年 [10・B1]
- 5) わが町国立 原田重久 迷水亭書屋 昭和50(1975)年 (291)
- 6) くにたち歴史探訪ガイドブック 改訂版 平成16(2004)年 [10・C6]
- 7) 江戸名所図を読む 川田壽 東京堂出版 1990年
- 8) 国史大辞典13 吉川弘文館 1992年 [R291]
- 9) 日本人物文献目録 法政大学文学部史学研究室 1974年 [R281]
- 10) 日本人名大事典 平凡社 1938年 [R281]
- 11) 広辞苑第5版 三省堂 1998年 [R813]
- 12) 岩波日本史辞典 岩波書店 1999年 [R210]
- 13) 多摩ら・び 2002No.20 スケッチで見る谷保風景 関敏 けやき出版 2002年 [02・A5]
- 14) 神社名鑑 神社本庁 1963年 [R175]
- 15) 総合佛教大辞典 法蔵館 2005年 [R180]
- 16) 日本仏教史辞典 今泉淑夫他 吉川弘文館 1999年 [R182]
- 17) くにたちの石造物を歩く 国立市教育委員会 1999年 [01・C2]
- 18) 東京歴史散歩60コース 東京歴史散歩編集委員会編 草工文化社 1980年 [01・C2]
- 19) くにたちみどりの交響楽 国立市教育委員会 1990年 [10・Q7]
- 20) 三田啓次家文書 国立市地域史料叢書 第16集 1993年 [10・B2]
- 21) 三田貞継家所蔵古記録 東京都教育委員会 昭和40年 [B2]
- 22) 北多摩郡文化財総合調査報告第一分冊 東京都文化財調査報告書 15 [郷土博物館蔵]
- 23) 谷保のむかしをさぐる  
-天満宮・城山・津戸三郎 記録する会 国立公民館 1983[10・B4]
- 24) 中世城郭の研究 小室栄 B4
- 25) 城山由来記 B4
- 26) 城山公園基本計画説明書 昭和58(1983)年5月31日 [10・S4]
- 27) 谷保・城山の四季  
~谷保城山の花ごよみ~ 谷保・城山のふれあいボランティア 2000年2月 [10・Q7]
- 28) 国立自然ガイド(植物編) 国立市民会館 1984年2月29日 [10・Q7]
- 29) 植物観察会の記録 1 なずなの会 平成15(2003)年9月 [10・Q7]
- 30) 植物観察会の記録 2  
~植物と人間のかかりあい~ なずなの会 平成20年12月 [10・Q7]
- 31) くにたちの野草いろいろ 国立市教育委員会 [10・Q7]
- 32) 帝都と近郊(復刻版) 小田内通敏 雄峰書店 1974年(原著は大正7年)[稲城市図書館蔵]
- 40) 市報くにたち 412号 基本計画平面図 昭和58年10月5日
- 41) 市報くにたち 447号 城山公園オープン 昭和61年5月5日